

3 「学習基礎調査」結果の分析を基にした学習指導の改善

(1) はじめに

『学力』を構成する「学ぼうとする力」、「学ぶ力」と「学んで得た力」には互いに相関関係があると考えられる。しかしながら、個々の児童生徒を見るとき、必ずしも学習意欲・学習スタイル等と諸テストの成績が一致しない場合があることも事実である。

そこで今回、「学ぼうとする力」、「学ぶ力」を新たに作成した「学習基礎調査」から、また「学んで得た力」を「NRT」から求め、相互の力がどのように関係しているかを改めて考察し、更に相互の力を組み合わせた視点からの個に応じた学習指導の参考データを提示した。

(2) 「学習基礎調査」のねらいと調査内容

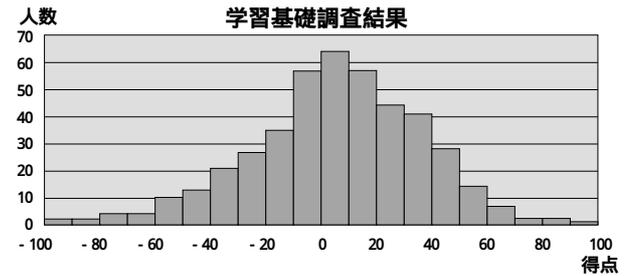
本調査は、「学ぼうとする力」、「学ぶ力」を客観的に捉えることをねらいとしている。調査内容は、5領域50項目で、詳細は以下に示す通りである。

「生活習慣」について(起床の自立性 朝食の摂取 校外での学習時間 テレビ視聴時間 睡眠時間 趣味の時間 校外での運動時間 家族との会話 家事分担 授業への準備)
「自分自身」について(自己理解度 自己肯定感 将来の夢 努力への価値観 他者からの肯定感 他者への肯定感 自己表現 ストレス度 ストレス防止等 生活の充足感)
「学習への意欲・姿勢」について(学習意義・目的感 予習 授業での集中 授業での発言 苦手への挑戦 復習 励まし等を受ける度合い 叱責等を受ける度合い 学習の楽しさ 発展的な学習への意欲)
「学習スタイル」について(学習計画の立案 校外の学習場の活用 社会の出来事への興味 校外の体験活動への参加 自力の解決方法 質問による解決方法 教科書・ノートの活用 参考書等の活用 コンピュータの活用 読書・新聞読み)
「学習環境」について(学校生活の自己評価 学級生活の自己評価 学校内で規則の守られる度合い 学級の学習雰囲気 授業の楽しさ 家庭生活の自己評価 家庭での心身のくつろぎ具合 家族との進路の話し合い 家庭での学習支援者の存在 長期休業中の体験学習)

(3) 「学習基礎調査」の分析方法

調査結果は、まず調査対象全員に対して、50項目のそれぞれの選択肢 A - B - C - D を、A... + 2点、B... + 1点、C... - 1点、D... - 2点に換算し、+

100点 ~ - 100点で採点した。



次に調査対象全員を、50調査項目中、+の得点の項目が多いH層、+と-の得点の項目がほぼ同等のN層、-の得点の項目が多いL層の3つの層に分けた。

H層	+ 31点 ~ + 100点	95人
N層	- 30点 ~ + 30点	284人
L層	- 100点 ~ - 31点	56人

更に「学ぼうとする力」、「学ぶ力」と「学んで得た力」の結果を組み合わせ、調査対象全員を「学習基礎調査」によるH、N、Lの3つの層と「NRT(国、数、英の3教科合計)」によるA ~ Eの5つの学力層(A ~ Eの順で高い)とをクロスさせたA - H ~ E - Lの15グループに分けた。

A - H	9人	A - N	20人	A - L	2人
B - H	31人	B - N	89人	B - L	7人
C - H	27人	C - N	81人	C - L	10人
D - H	21人	D - N	59人	D - L	16人
E - H	6人	E - N	32人	E - L	18人

上記の手順を踏んだ上で、「学ぼうとする力」、「学ぶ力」と「学んで得た力」の関係を「学習基礎調査」と「NRT」の結果の相互比率の分析から考察した。更に15グループの特性傾向を分析し、個に応じた学習指導の参考データを求めた。

(4) 「学習基礎調査」の分析結果

「NRT」によるA ~ Eの5つの学力層での「学習基礎調査」によるH、N、Lの3つの層の比率

	H層	N層	L層
A層における比率	29%	65%	6%
B層における比率	24%	70%	6%
C層における比率	24%	68%	8%
D層における比率	22%	61%	17%
E層における比率	11%	55%	34%